

MOT コレクション特別展示「マーク・マンダース：保管と展示」によせて

本展示は、当館で6月まで開催されていた企画展「マーク・マンダース —マーク・マンダースの不在」の会期短縮を受けて、各所のご協力により急遽企画されたものです。

同展は、この1年以上にわたる世界的な感染症拡大の影響を受けた多くの展覧会と同様、開幕後ほどなく発令された3度目の緊急事態宣言により、およそ1か月の間、休館となっていました。大規模な彫刻を含むこれら作品群はそう幾度も輸出入の機会がないこともあって作家も当初は会期の延長を望んでいましたが、残念ながら長期の会期延長は難しい上、宣言下では展覧会の再開自体が危ぶまれる状態にありました。このような時期にあって美術館は作家と様々な可能性について話し合い、私たちができることを考えたときに、やはり作品それ自体を公開することを重視し、企画展とは別の形で作品を公開する特別展示のプランが出てきました。作家からのレターの一部をご紹介します。

パンデミックのために展覧会を閉じなければならなかったのは残念ですが、2回目の展覧会を開くというアイデアは素晴らしいと思います。…観客にとって、また「マーク・マンダースの不在」展を見ることができた人たちにとっても、この「保管」の展示は素晴らしいものになると思います。同じ作品で2つの異なる展覧会が現代美術館で実現するというのは大変ユニークなことです。

こういった特別な状況下において提示された作家のプランは、「保管と展示」と名付けられた、批評性に富むものです。当館所蔵作品《椅子の上の乾いた像》と、ボンネファンテン美術館所蔵の《マインド・スタディ》の2点が、展示空間全体を挟み込むごとく両端に「展示」される一方で、残りの作品をいわば仮に「保管」しているように緩やかに配置する、という構想です。

「マンダースの不在」展では、個々の作品を精緻に配置することで、作品間の関わりを辿る「一つのセンテンス」の実現が企図されていましたが、本展示では、個々の作品がセンテンスを構成する以前の、いわばバラバラな単語の集合体として、一種中間的な状態が提示されます。同じ作品でありながら全く別のインスタレーションとなります。

企画展をご覧になった方には、作品（モノ）を単語のように用いる、というマンダースの仕事をまた別の仕方で、いわば二重に体験して頂ける機会になるでしょう。初めてご覧になる方も、その魅力にダイレクトに触れて頂けることと思います。そして何よりもこの緊急的な展示の背後に、現在、これらの作品や私たちが実際に置かれている、コロナ禍の中間的な状態を透かし見ることができるでしょう。